

第6回グローバル5Gイベントが、5G Brazil主催で2018年11月28日～29日にブラジルのリオデジャネイロ市において開催された。世界各国から200名を超える政府関係者、専門家、業界関係者が集まり、「5G Technology Changing Paradigms of a New Society」をテーマに活発な議論がおこなわれた。また、11月30日には、IEEE 5G Summit Rioが併催され、ブラジル中心に約100名の参加があった。

第6回Global 5G Eventの概要

- 日時: 2018年11月28日(水)～29日(木)
- 場所: Pestana Hotel (リオデジャネイロ市、ブラジル)
- 主催: 5G Brazil
- Web: <http://6thglobal5geventbrazil.org.br/en/home/>
- 登壇者: 日本からの以下の5名を含む延べ約70名のモデレータ・パネリスト

中里学氏(総務省)、奥村幸彦氏(NTTドコモ)、黒澤葉子氏(KDDI)、中村隆治氏(富士通)、佐藤孝平事務局長(5GMF)



「グローバル5Gイベント」は、世界の第5世代移動通信システムに関する推進団体により、年2回共同開催されるものです。推進団体: 5GMF(日本)、5G-IA(欧州)、IMT-2020(5G) Promotion Group(中国)、5G Forum(韓国)、5G Americas(米国)、5G Brasil(ブラジル)

■概要:

- ・今回のイベントでは、各国の周波数政策、標準化、実証試験の最新状況、地域特有の課題に対する取組み、ビジネスチャンス、商用化計画、チップセット、研究と技術の動向、Beyond 5G等、多岐にわたる具体的な報告があり、5G商用サービスが、いよいよ現実のものとして実感できるイベントとなった。
- ・日米欧中韓伯の政府関係者、5G推進団体、専門家と業界関係者、合計200名以上が参加した。
- ・2日間にわたるイベントでは、オープニングセッション、8つのパネルセッション、メインスポンサーであるHuaweiから2つのキーノートスピーチがおこなわれ、延べ約70名のモデレータ・スピーカーが登壇した。
- ・開催国であるブラジルは、広大な国土の1%に85%の人口が集中しており、他の国とは異なるブラジル特有のユースケース(農場管理や遠隔教育など)や課題に対する取組み(衛星利用やスーパーセル基地局)が印象的であった。
- ・オープニングセッションでは、「Government Policies for 5G」をテーマに、各国・各地域の政策について6件の講演がおこなわれた。総務省移動通信課新世代移動通信システム推進室長の中里学氏は「5G Progress Status in Japan」と題して、2020年に向けた日本の5Gの状況と政策として、実証試験、周波数割当て、共用検討について講演をおこなった。また、FCCのJulius Knapp氏は、米国では5G技術の促進を目的とした戦略(5G FAST Plan: スペクトラムの供給、インフラ政策の更新、規制の近代化を計画)を推進しており、加えて、5G用として1GHz以下の帯域、WiFi用として6GHz帯と95GHz超帯についても検討していることが報告された。
- ・8つのパネルセッションでは、中里学氏(総務省)、中村隆治氏(富士通)、黒澤葉子氏(KDDI)、奥村幸彦氏(NTTドコモ)がそれぞれ講演を、佐藤孝平氏(5GMF)がモデレータを担った。
- ・最後に、5G-IAから第7回グローバル5Gイベント(次回から年1回開催、EUCNC2019と併催)が、2019年6月17日～18日にスペインのバレンシア市において開催されることがアナウンスされ、2日間のイベントを締めくくった。(<http://www.7thglobal5gevent.eu>)
- ・なお、イベント後に開催されたTPC(Technical Program Committee)において、今会合の反省点や次回に向けた改善点に関する意見交換を行うと共に、2020年のイベントはIMT-2020 PGがホストで中国において開催予定(6月を予定)であることが確認された。



イベント会場
(Pestana Hotel、リオデジャネイロ市)



講演会場 (Pestana Hotel)

■ パネルセッションの概要:

- ・パネル1では、「5G Ecosystem: Challenges for its Development」をテーマに、各国の5Gエコシステム構築に向けたチャレンジに関して7件のプレゼンテーションがおこなわれた。富士通の中村隆治氏は「The dawn of 5G」と題して、ヒューマン・セントリック・インテリジェント・ソサエティに向けた、継続可能な取組みについて報告した。
- ・パネル2では、「5G for Remote Areas: Challenges and Opportunities」をテーマに、各国から遠隔地に対する取組みに関して6件のプレゼンテーションがおこなわれた。KDDIの黒澤葉子氏は「Creating New Experience With partners by 5G」と題して、社会的課題に対するパートナーとの取組みについて、酒造りや除雪等の事例を報告した。
- ・パネル3では、「Spectrum Harmonization and Regulatory Issues」をテーマに、各国から周波数協調に関して7件のプレゼンテーションがおこなわれた。総務省の中里学氏は「5G Progress Status in Japan」と題して、周波数割当てに対する基本的な考え方と新たな審査基準、具体的な推進計画について報告をおこなった。
- ・パネル4では、「The Standardization of 5G」をテーマに、5GMF事務局長の佐藤孝平氏をモデレータとして、ITU-R、3GPPや各国の取組みに関して7件のプレゼンテーションがおこなわれた。ディスカッションでは、グローバル5Gイベントの活動を通して、5G+AIやBeyond 5Gについて議論を深めるべきであることが共有された。
- ・パネル5では「5G Research and Technological Trends」をテーマに、各国から7件のプレゼンテーションがあった。富士通の中村隆治氏は「Stepping forwards to 5G」と題して、今後、爆発的に増加する新たなトラフィックに対して、ミリ波技術、スマートアンテナ技術、遅延時間と距離の関係について報告があった。
- ・パネル6では、「Infrastructure for 5G」をテーマに各国から7件のプレゼンテーションがあった。KDDIの黒澤葉子氏「Infrastructure for 5G」と題して、5Gの商用化に向けた「5G/IoT × Digital Transformation」について、KDDIの事例を報告した。
- ・パネル7では、「5G Trials and Pre-Commercial Launches」をテーマに6件のプレゼンテーションがあった。NTTドコモの奥村幸彦氏は「5G System Trials in Japan」と題して、2018年度の総務省5G実証試験の内容について報告をおこなった。
- ・パネル8では、「5G Vertical Markets and Use Cases」をテーマに7件のプレゼンテーションがあった。NTTドコモの奥村幸彦氏は「Co-Creation of New Services and Resolution of Social Problems by Utilizing 5G」と題して、新たなサービスの共創や社会問題の解決について、NTTドコモの事例を報告した。
- ・詳細は、Webをご覧ください。<http://6thglobal5geventbrazil.org.br/en/home/>



中里学氏(総務省)



奥村幸彦氏(NTTドコモ)



黒澤葉子氏(KDDI)



中村隆治氏(富士通)



佐藤孝平氏(5GMF)